

2 教育目標

(1) 学校の教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる人間をめざす。

◎かかんがえる子（自ら考え表現し、他者と協働して学びを深める力）

○やさしい子（自分も相手も大切にし、互いの良さを受容する力）

○つよい子（すすんで心と体の健康を大切にする態度・実践力）

○つながる子（思いやりの心で多様な他者と関わる力、自己実現に向けて挑戦する力）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア かかんがえる子～確かな学力を育む「学ぶ楽しさを得られる学校」～

【育てたい資質・能力：自ら考え表現し、他者と協働して学びを深める力】

(ア) 児童にとって最適な指導・支援の方法を考え授業改善を図る。「三鷹市小・中一貫カリキュラム（更新版）」に基づき「三鷹中央学園小・中一貫カリキュラム」の改善を図りながら活用し、学園研究・校内研究を核として義務教育9年間の連続性と系統性のある指導の更なる充実を図る。また、児童・家庭・地域の実態に応じた教育内容を考え、効果的な教科横断的指導、新アクションプランに基づく、家庭・地域と協働する学びを推進する。

(イ) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、言語能力や情報活用能力の向上を図る。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導と関連させながら、学校の教育活動全体を通して、児童が自分の考えを表現する場面を設け、汎用的な力を伸ばしていく。また、デジタル・シティズンシップ教育の考え方の下、Netモラルの活用や話し合い活動等を通じて児童自らが行動規範をもって活用できるよう支援し、学習用タブレット端末、学校図書館、地域の図書館等を目的に応じて選択・活用することで情報活用能力を高める。

(ウ) 児童一人ひとりの学習状況を把握し、個別最適な学びの実現を図る。ユニバーサルデザイン化された環境を整備するとともに、児童の興味関心、学習状況を踏まえ、個に応じた学習課題や方法を選択して取り組むことができるようにし、児童の自立した学びを支援する。さらに、各学力テスト等の結果分析を授業に生かすとともに、みたか地域未来塾、学習ボランティア等の地域人財も活用し、児童のつまずきに応じた指導を充実させる。

(エ) 児童一人ひとりの思考力・判断力・表現力を高める。学んだ知識及び技能を活用しながら、児童同士や様々な他者との交流・対話を促し、協働的に学ぶ場面を設定することで、それぞれの自己表現を活発にさせていく。

イ やさしい子～豊かな心と人間性を育む「安心して過ごせる学校」～

【育てたい資質・能力：自分も相手も大切にし、互いの良さを受容する力】

(ア) 学校生活の中で児童が意見を表明できる機会を計画的に設け、教育活動の充実に向け積極的に生かしていく。また、保護者や地域、関係機関との連携も十分に図り、児童の最善の利益を第一に考えた学校運営を行っていく。

(イ) 「特別の教科 道徳」を中心に、「思いやり」、「生命の尊さ」を重点とし、お互いの立場や生命を尊重し、認め合いながら協力する態度を育む。「考え 議論する道徳」の話し合いを通して、考えを広げたり深めたりできるようにしていく。また、他教科等とも関連させながら全教育活動を通して、児童の心を育てる関わりを意図的・多面的に行う。教え、考えさせる指導を通して、規範意識（あいさつ、時間、言葉遣い等）の向上を図る。

(ウ) 児童が安心して学校生活を送ることができるようにしていく。「いじめ問題」の根絶、長期欠席・不登校児童への対応等を、スクールカウンセラーや適応支援教室等、関係機関との連携を強化して、迅速かつ組織的に行う。また、全教育活動を通じて、いじめを許さない心と態度の育成を図る。

(エ) 教育支援の充実を図る。個別指導計画や個別の教育支援計画に基づき、一人ひとりのニーズに最も的確に応える体制を整える。個別に対応していくことで、それぞれの困り感に寄り添い、安心して学校生活を送ることができるようにする。

- ウ つよい子～たくましく生きるための健やかな心と体を育む「心身ともに健康でいられる学校」～
【育てたい資質・能力：すすんで心と体の健康を大切にする態度・実践力】
- (ア) 健康な体づくりを児童自らが意識して取り組めるようにする。体力・運動能力向上への取組の充実を図る。基本的な生活習慣の定着、バランスのよい食生活指導（食育）、健康教育等の取組を、新アクションプランと関連させながら家庭・地域と協力して推進する。
 - (イ) 児童に体を動かすことの楽しさを実感させる。体力調査の結果分析を生かした指導、休み時間の外遊びや体育旬間の取組など、年間を通して様々な取組を行う。また、「学校2020レガシー」としてのバラスポーツ体験、「ボランティアマインド」「障がい者理解」「豊かな国際感覚」等の資質・能力を育成する。
 - (ウ) 「食」に対する興味・関心を高める。給食や食育指導、生活科や総合的な学習の時間の学びを通して三鷹野菜に対する興味をもち、野菜を育てたり、調理したりする体験的な活動を多く取り入れていく。

- エ つながる子～人や地域とより良く関わり、自分を生かす力を育む「つながりを大切にする学校」～
【育てたい資質・能力：思いやりの心で多様な他者と関わる力、自己実現に向けて挑戦する力】
- (ア) よりよい社会を創る担い手として、児童自身がすすんで多様な他者や地域と関わり、自分の人生を切り拓いていくことができる資質・能力を育成する。そのために、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校の特性を生かし、学園の児童・生徒同士、教職員同士の交流の充実を図る。
 - (イ) 様々な人たちと自分からつながろうとする意識をもたせる。相手や場に応じた言葉遣いやあいさつ（特に「ありがとう・ごめんなさい・助けて」という言葉）が、人と人をつなぐ上で大切であることを年間通して指導し、実践できるようにする。
 - (ウ) 学校・家庭・地域が「共育」「協育」という理念を共有し、児童を育てていくことを目指す。学校が「核」となり、教育課程に基づく具体的な教育活動を、家庭・地域と協働して取り組む。地域人財や学習ボランティア等を積極的に活用し、学校や子どもたちを「縁」とするスクール・コミュニティを推進する。
 - (エ) 「自分は誰かの役に立っている」「自分は将来こうなりたい」という思いをもてるようキャリア教育を推進する。キャリア・アントレプレナーシップ教育の視点から、児童・生徒、さくら学級、幼・保各園、保護者、地域の方等、様々な人との関わりの中で自己肯定感や自己有用感を高め、将来への希望をもたせる機会を作る。

オ その他

- (ア) 教員自身が充実感をもてるようにする。学園研究・校内研究に取り組むとともに、授業力向上のため、それぞれの専門性をもち、より高めるための研究にやりがいを感じながら取り組めるようにする。また、教員一人ひとりのウェルビーイングのために、働き方改革を推進する。
- (イ) 教員の児童理解力を高める。児童の気持ちに寄り添い、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を充実させるため、様々な研修を通してカウンセリングマインドを高め、個々の教員はもちろん、組織として児童を支え続ける。

(3) 学園の教育目標を達成するための学校としての重点

ア 「確かな学力を育む」ための重点

- (ア) 「三鷹『学び』のスタンダード（学校版）」や新アクションプランを有効活用し、ユニバーサルデザインの視点に基づいた指導を行う。児童一人ひとりに応じた指導や協働的な学びの場の充実を図る。
- (イ) 小・中学校9年間の連続性・系統性のある教育活動を推進する。各学力テスト等の結果分析も参考にしながら、「三鷹市小・中一貫カリキュラム（更新版）」及び「三鷹中央学園小・中一貫教育カリキュラム」に基づく学年ごとに身に付けさせたい力を明確にした指導を行う。相互乗り入れ授業や算数習熟度別指導、高学年における一部教科担任制も有効に活用する。また、低・中学年における学年合同授業、交換授業、一部教科担任制を推進する。
- (ウ) 学習用タブレット端末等のICTを効果的に活用し、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育む。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- (エ) 読書活動によって、児童の言葉の力を育む。読書に対する興味関心を高め、すすんで読書をする

ことができるようにする。学校図書館の有効活用、朝読書や学習ボランティアを活用した読み聞かせ、学園の読書旬間等の取組を充実させる。

- (オ) 家庭や地域との連携を図ることにより家庭学習の習慣化を推進する。みたか地域未来塾の充実を図るとともに、学習用タブレット端末を活用した家庭学習についても家庭と協力しながら推進する。

イ 「豊かな人間性を育む」ための重点

- (ア) 道徳教育や人権教育の一層の推進を図り、感謝と思いやりの心を育む。「特別の教科 道徳」の授業を中心に全教科の指導において、また、様々な交流活動、ボランティア活動、地域学習等の機会を生かし、意図的に指導する。様々な研修を通して、教員の人権感覚をアップデートする。
- (イ) あいさつや言葉を大切にすることを養う。あいさつ運動を地域や家庭とも連携し、さらに充実させる。全校朝会や集会、放送なども含めた児童の言語環境を整える。
- (ウ) 学校生活の中で児童が意見を表明できる機会を積極的に設け、児童自身が「自分は価値がある存在だ 自分は誰かの役に立っている」と考えられるようにする。また、委員会活動や実行委員・係活動等、自分の役割を意識する取組を充実させ、達成感を味わわせる。
- (エ) コミュニケーション能力を高め、お互いを尊重し合える関係をつくる。年間を通し、様々な形の交流活動を行い、児童がお互いを認め合い、協働できるように支援する。

ウ 「たくましい心と体を育む」ための重点

- (ア) 「一校一取組」「一学級一実践」運動等により、年間を通して運動に取り組む意識の醸成と体力の向上を図る。
- (イ) 健康教育、食育を充実させる。感染症予防も含め、自身の健康に興味をもたせる。また、三鷹野菜に親しむ等の食育を行い、食に対する関心を高める。
- (ウ) 人と共に活動する中で、非認知的能力を高める。小・中学生の交流活動（部活動見学、中学校体験）、小学生同士の交流活動を行う中で、それぞれが自身の課題を見つけ、目標に向かい共に協力する、あきらめずに努力する、自立・自律をめざすことなどができるようにする。
- (エ) 「学校2020レガシー」の取組を推進する。「ボランティアマインド」、「障がい者理解」。「豊かな国際感覚」を重点に、本校のレガシーとなるパラスポーツ体験の取組を推進する。

エ 「地域を愛する心と態度を育む」ための重点

- (ア) 地域を愛し、社会に貢献しようとする態度を養う。コミュニティ・スクール委員会と共に、地域の人々との「共育」「協育」を推進する。地域の教育資源を活用した活動を推進する。
- (イ) 災害に対し、自助・共助ができる地域の一員を育てる。地域や家庭と協働して行う6年間を通じた防災教育により防災に対する意識を高めるとともに、高学年においては、地域の防災訓練等にボランティアとして参加させる。
- (ウ) キャリア・アントレプレナーシップ教育の充実を図る。地域等の様々な人との交流を通し、相手の思いを想像したり、コミュニケーションをとったりすることで、自身の将来に対する見通しをもつことができるようにする。
- (エ) 地域の中で児童が安心して生活できるようにするサポートの充実を図る。地域の commons としての学校施設をいかした学校3部制を推進するため、放課後の居場所としての「あそびバナナ」や学童クラブとの連携を深める。地域の方も含めた「あそぼネット会議」を定期的で開催し、必要に応じて、児童相談所、子ども家庭支援センター、民生児童委員、保護司等の関係機関や関係団体との連携を図る。